

埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在70か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

ひがしながれやま・みずくばいせき 東流山・水久保遺跡第2地点

調査地：朝霞市根岸台七丁目地内

期間：令和7年5月21日～6月12日

調査面積：210.88㎡

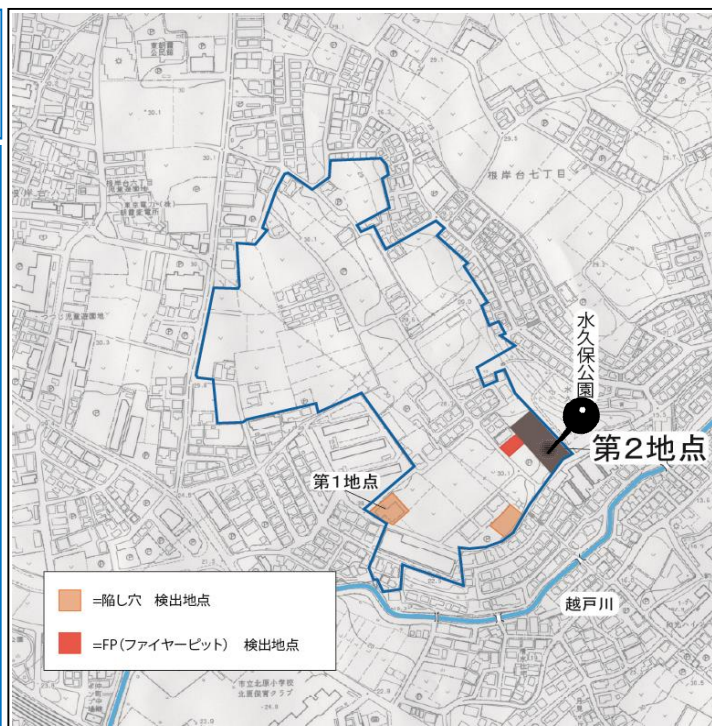
◆今回の調査では、住居跡1軒・土坑6基・ピットなどが確認され、遺物は、縄文土器・石器などが出土しました。

東流山・水久保遺跡は、市内南東に位置し、市域を隔てる越戸川を臨む斜面地～平場にかけて位置しています。また遺跡の北側には今でも湧水を有する水久保公園が存在するなど、遺跡の立地としては適した場所でもあります。

住居跡は、明確な形は不明でしたが、住居跡内で出土した遺物などから縄文時代早期と考えられます。住居内に炉を有しておらず、発掘調査地の周囲で屋外炉（ファイヤーピット）が見つかることなどからも、当住居跡が縄文時代早期である可能性を高めています。

また、見つかった土坑のうち1基は、その形状等から陥し穴（おとしあな）と考えられ、底面に逆茂木（さかもぎ：底面に小木等を打ち込み落ちてきた獲物を動けなくする仕掛け）の跡と思われるピットも見つかっています（あさか埋文レポートVol.2参照）。陥し穴は第1地点でも見つかり、また周辺の試掘調査でも確認されています。

現在のところ2地点しか発掘調査をしていないため正確なことは不明ですが、台地の縁に沿って陥し穴が見つかることから、東流山・水久保遺跡は越戸川の水や水久保公園に見られる湧水など、獲物が集まってくる地形を利用した狩り場であった可能性が考えられます。



東流山・水久保遺跡第2地点 位置図

&
ファイヤーピットと陥し穴検出状況

どんな動物が
集まってきた
のかな？



東流山・水久保遺跡第2地点 全景